

# AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

母性衛生 (2006.09) 47巻3号:P210.

助産選択学生の「職業準備行動」と関連要因の検討

山内まゆみ, 伊藤幸子, 黒田緑

## P-083 助産選択学生の「職業準備行動」と関連要因の検討

旭川医科大学 医学部 看護学科

山内 まゆみ、伊藤 幸子、黒田 緑

【目的】学士課程の助産師教育は、キャリア発達の出発点でもある。松為は、キャリア教育の段階的な目標に「職業準備行動」“どのような仕事であっても共通して要請される職業人としての役割を遂行するための条件”の重要性を指摘した。そこで、助産選択学生における「職業準備行動」と関連要因の検討を行った。【方法】対象：第4学年の助産選択学生13名で、事前に調査協力の同意を得た。測定用具：1)職業準備行動自己評価票23項目で、松為の「職業準備行動」を参考に作成した。2)学習到達度自己評価票で、ICMの「基本的助産業務に必須な能力」から113項目、3)日本語版Self-Directed Learning Readiness Scale(自己決定型学習の準備性尺度)であった。手続き：調査時期は1)看護学実習前(5月)、2)看護学実習直後(10月)、3)助産学実習直後(12月)の3回/年度であった。【結果・考察】回収数11名(回収率84.6%)、有効回答数10名(有効回答率90.9%)で、職業準備行動得点の平均値は5月が77.6点、10月が85.9点で有意な得点の上昇があり( $p < 0.05$ )、12月は83.3点であった。助産学実習直後の職業準備行動と関連する要因は、助産学実習直後の学習到達度( $r = 0.632, p < 0.05$ )、看護学実習前後比較による自己決定型学習の準備性の伸び( $r = 0.716, p < 0.05$ )、看護学実習直後と助産学実習直後の比較による職業準備行動の伸び( $r = 0.720, p < 0.05$ )であった。